

■みらいの学校づくり意見交換会で たくさんの意見をいただきました

令和6年9～11月に市内23か所でみらいの学校づくりについて意見交換会を開催しました。いただいた意見は4つのテーマに分類し、これを参考に、検討委員会で議論を進めていきます。詳しい内容や会場ごとの意見は、市ホームページ(右ページの二次元コードから)をご覧ください。



意見交換会

教育内容の意見

- ・学力向上・学習環境の向上について、現状に満足せず、失敗を恐れずに試行錯誤していく教育であってほしい。英語教育は、実践の場を設け、英語嫌いをつくらず、ぜひ進めてほしい。
- ・豊かな人間形成として上山に残りたい、戻りたい、応援したいと思える郷土愛を育むことが大事。
- ・上山でしか学べない独自性のある教育を望む。
- ・個に応じた能力を伸ばす時代にあった教育環境を整備してほしい。将来を考え、教育ICTの充実、デジタル活用能力を育成してほしい。 など

総合的な意見

- ・劇的な社会変化や、少子化が想像以上に進行していて、子の将来を考える良い機会になったが、「自分ごと」として参加する人が少ない。大事なことなので、当事者意識の醸成や情報提供方法などを含め、改めて意見を聞いてほしい。
- ・児童生徒、教職員からも意見を聞いてほしい。
- ・学校施設の老朽化による不公平がないようにしてほしい。
- ・人口減少や近年の自然災害を考慮し、学校と防災拠点施設のあり方を検討してほしい。 など

学校統合・大集団を望む意見

- ・教育の質の確保(切磋琢磨できる環境、複式学級解消、中学校での教科担任確保)や社会性・協調性の育成のためにも一定の集団が必要。
- ・上山全体を一つの地域「オール上山」として、全地域が統合校を支えていく体制が望ましい。
- ・部活動の選択肢が持てる学校にしてほしい。
- ・財政状況を踏まえた統合・老朽化の検討が必要。
- ・変化が速い社会なので15～20年先を見据え、早急に統合や小中一貫教育の検討をすべき。
- ・統合により学校施設環境の充実を望む。 など

学校現状維持・小集団を望む意見

- ・先生の目が行き届くなど、小規模校ならではのきめ細やかさ、魅力がある。一人ひとりに寄り添った学校になっていくと良い。
- ・学校の規模は人格形成、教育に関係ない。多くの経験をすることで魅力ある活動はできる。
- ・地域で子どもを育てることは大切。小学校は地域に残してもらいたい。
- ・小学校は、現在のまま地域に残してもらいたいが、中学校は部活動も選択できない状況なので中学校の統合は仕方ないと思う。 など

■市民アンケートを行います。たくさんの意見をお願いします！

市民のみなさんの意見を把握し、「上山市みらいの学校構想」の策定を進めるため、アンケート調査を行います。右の二次元コードから回答をお願いします。アンケート用紙への直筆記入を希望する人は問い合わせください。

回答期限 2月28日(金) 午後5時



▲アンケート

※保護者(未就学児、市内小・中学校の児童生徒)には、別途、アンケート回答依頼文を配付します。依頼文記載の二次元コードから回答をお願いします。

未就学児の保護者 郵送 市内小・中学生の保護者 小学校・中学校経由で配付

※市内小・中学校の児童生徒、教職員へのアンケートは、市教育委員会で別途実施予定です。

子どもたちのために、市民みんなで、 上山のみらいの教育・学校を考えよう！

問 教育企画課 内線302

■みらいの学校構想検討委員会で、将来の教育・学校の検討を進めています

少子高齢化による児童生徒の減少やAI等の高度情報技術・グローバル社会の進展など、社会の急激な変化は子どもたちの教育環境にも大きな影響を与えています。

社会変化を見据え、長期的な展望を持ちながら、本市の魅力的な教育および小・中学校の将来のあり方を示す「上山市みらいの学校構想」を令和7年度中に策定するため、令和6年8月から、保護者代表や地域関係者、学識経験者などによる「上山市みらいの学校構想検討委員会」で検討を開始しました。主な検討内容は次のとおりです。検討経過や資料は市ホームページをご覧ください。



▲市ホームページ



検討委員会

第1回(令和6年8月28日)

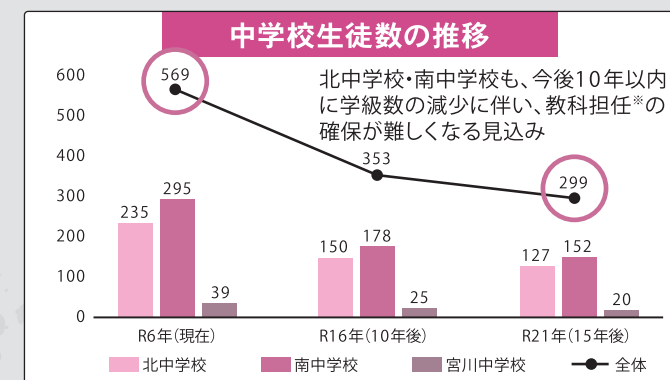
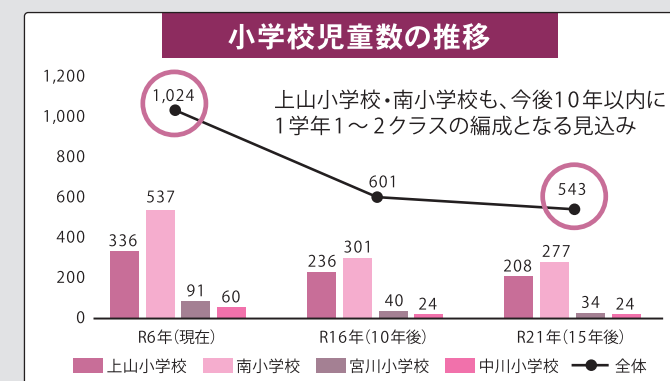
これまでの経過・現状・課題の情報共有、今後の検討の進め方 など

第2回(令和6年12月23日)

みらいの学校づくり意見交換会で出された意見内容、アンケート調査概要 など

■本市の児童生徒・学校施設の状況

少子化が進行し、15年後の児童生徒数は、現在の半分程度になる見込みです(市教育委員会試算)。児童生徒数の減少に伴い、各学校の小規模化が進むことで、今後さまざまな課題が予想されます。また、学校の耐震化や必要な整備は実施しているものの、学校の老朽化も課題です。



■小規模化(学級・人数の減少)に伴い、 考えていかなければならない課題

- ・多様な学び、考え方の広がり
- ・切磋琢磨できる環境
- ・集団生活への適応能力
- ・男女比の偏り・クラス替えができないことによる人間関係の固定化
- ・複数学年で編制する複式学級の発生・増加による教育の質の確保、教職員の負担増加
- ・集団活動、部活動の選択肢の数
- ・中学校の教科担任確保(免許外指導の発生)

■市内小中学校の建築年数

上山小学校 > 築10年	北中学校 > 築52年
南小学校 > 築46年	南中学校 > 築64年
宮川小学校 > 築43年	宮川中学校 > 築65年
中川小学校 > 築31年	

※中学校における「教科担任制」とは、教科ごとに専門の教員が授業を担当する指導形態のこと。全授業で専門教科の教員による学習指導を行うためには、1学年に3学級以上(全体で9学級以上)が必要。